

4月 活動報告

去年、エクアドルに留学していたドイツの女の子に会う機会がありました。彼女はとてもフレンドリーで明るい性格で、すぐに打ち解けることができました。その家族みんな集まって、お昼ごはんを食べながらいろいろな話をしました。彼女のエクアドルでの生活や文化の違いについて聞くのはとても興味深く、新しい発見がたくさんありました。食事のあとは近くの公園に行き、みんなでバスケットボールをして遊びました。

友達から折り紙のリクエストをいただいたので、後日プレゼントしました。なんとその子は大事そうにそれを自分のスマホケースの裏に入れてくれたんです。日本の文化を少しでも伝えられたことが嬉しく、私自身にとって心に残る出来事となりました。



4月16日は、「CASA ABIERTA」という他の学校との交流会がありました。私はスポーツの試合をしました。バレークラブの先生からは男女混合チームで試合すると言われていましたが、当日に女子だけと言われたときは絶望しました。しかし、日々の練習のおかげで2セット取ることができました。チームメイトから何回もありがとうって言ってもらい嬉しかったです。中学校でバレー部を選んで良かったなと思いました。

【アマゾン地域 (Oriente) Cuyabenoへの旅行】4/22-25

0日目

クヤベノに午前中に到着するために、前日(21日)の夜11時にキトを出発しました。まずキトから経由地点のホテルまで10時間以上バスに乗りました。

1日目

ホテルに朝6時に到着し、3時間待機したあと、バスとカヌーに2時間ずつ乗り、4日間過ごすCAIMAN ECO LODGEというロッジに到着しました。高床式で窓はありません。壁も隙間だらけで、屋根は藁のようなものでした。今までの宿泊施設と違いすぎて、みんな興味津々です。中にはベットと蚊帳、シャワールームとトイレがありますが、灯りは夜6時から10時までしかなく、シャワーは冷水だけでした。ロッジに着くまでに猿やこの地域にしかない鳥を見ることができました。

この日はお昼ご飯を食べたあと、ラグーンで泳ぎました。底が真っ暗で何も見えませんが、とても暑かったので、気持ちよかったです。サンセットを見ながら泳ぐことができました。景色はとても綺麗です。夜はカヌーで2時間ほど散策しました。周りになにもないので星がよく見え、プラネタリウムみたいでした。ワニやヘビを見ることができました。



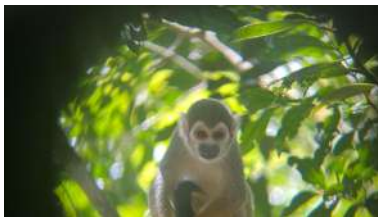




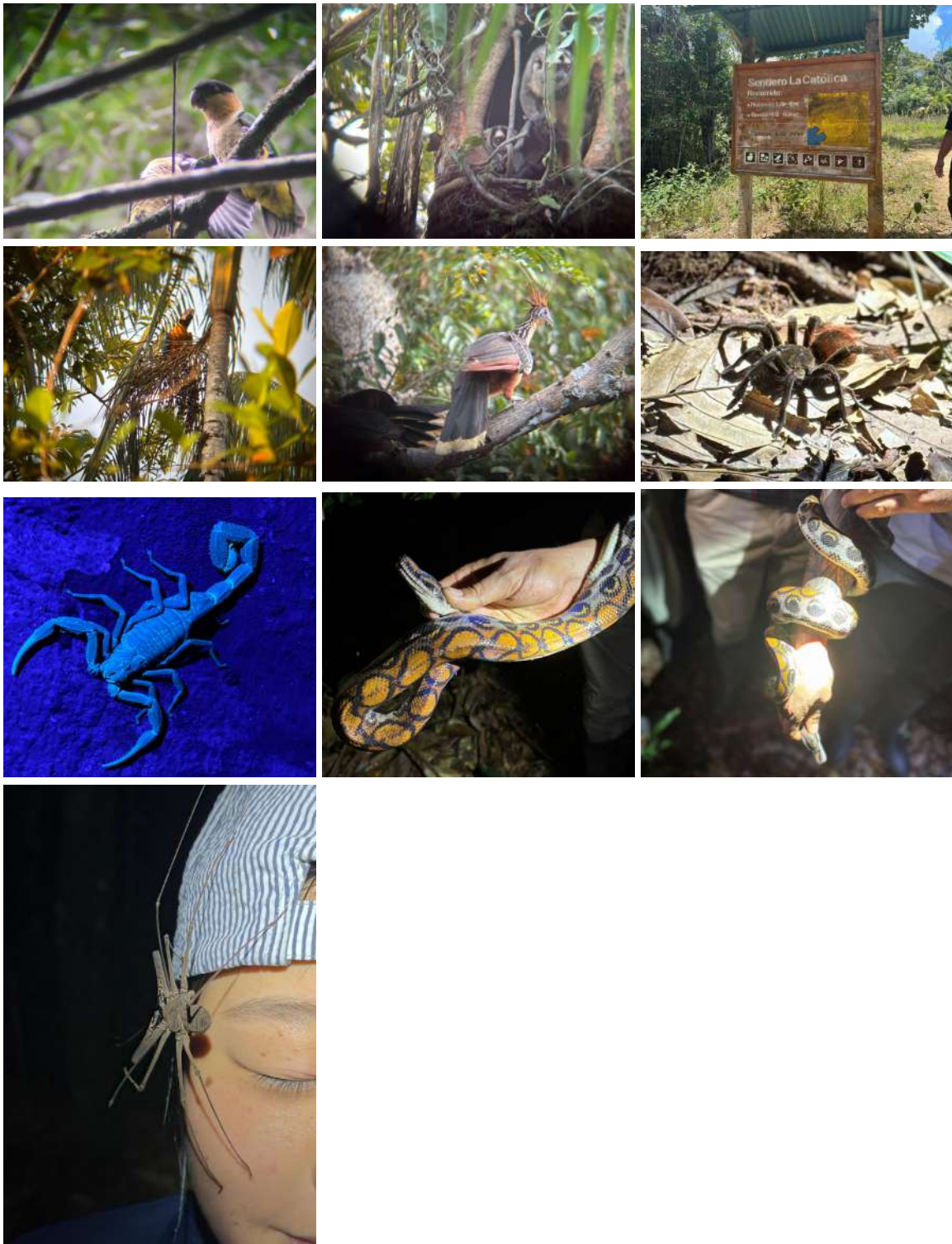
2日目

朝9時から森林のなかを4時間ほど歩きました。そこでは、鳥はもちろん、ナマケモノ、猿などを見ました。ある種類の木に火をつけるとタバコのように吸うことができたり、枝の中にいる小さいアリを食べたらレモンのような味がしたり、良い匂いがする木の果のオイルを付けたりしました。途中泥沼があり、それはメタンガスが含まれているので火を近づけるとボワッと一瞬だけ燃え上がりました。メッセージをかける葉っぱや1年で20cmだけ動く木などを見ることができました。この日もラグーンで泳ぎました。夕焼け空は前日より雲が多かったですが、すごく綺麗です。そのあと少し休憩し、また2時間ほど歩きました。この時はすでに真っ暗でしたが、この時間帯の方が虫をたくさん見ることができるらしいです。そしてサソリや見た目はタランチュラみたいなのに毒がないクモや動きが速すぎるヘビを見ました。ヘビのときはみんな叫んでいましたが、現地のガイドさんはなんてことなく掴んでいました。面白かったのは顔にクモをのせたことです。テレビでしか見たことなかったので良い思い出になりました。ガイドさんが「1分間ライトを消し、静かにしてみて自然を感じましょう」ということで、真っ暗の中虫の音や鳥の鳴き声を聞き、光る葉っぱを見つけることができました。

アクティビティが終わり、寝支度をしていたところにネズミ出現で部屋は大パニックでした。







3日目

昨夜は雨が降っていたので、1日中涼しかったです。この日は、この地域最大の民族である Puerto Bolivarの集落に行きました。そこではCasabeというユカ(キャッサバ芋)のパンを作りました。

◎Csabeの作り方

- ①芋を掘ります。掘るまでただの木だと思っていたのでびっくりです。
- ②皮を剥き、すりおろします。この作業が結構大変でした。
- ③水分を抜くためになにかの葉でできたシートに乗せ、絞っていきます。
- ④ふるいにかけて粉末にします。

⑤平らな鍋に粉を入れ、平たく伸ばして両面焼いたら完成です。パンと言うよりトルティージャのようで、サルサとサラダで食べます。

この地域では顔に赤くペイントするらしく、私も体験することができました。ベノニキという植物の種子を潰し、枝で顔に描きます。ガイドさんがみんな違うように描いてくれました。その後少し移動し、民族のリーダー的な人が現地の言葉や洗浄の儀式を行いました。その儀式の終盤にトゲだらけの葉っぱで体を叩くのですが、それが触れた場所は蕁麻疹のように腫れ、かゆいそうです。私はこれが怖すぎて、遠慮しました。

そしてついに、Chontacloを食べました。チョンタヤシに生息する幼虫で今回は生きたまま食べることができました。グニョグニョしてる上、噛んだ瞬間なんか出てきて、お世辞でも美味しいなんて言えません。



4日目

朝5時からカヌーで最後の探索です。この日も涼しくて、過ごしやすかったです。そして朝食をとったあと帰るためにまたカヌーとバス2時間そしてバス10時間で夜の11時にキトに到着しました。タ

クシーで家に帰ることもできたのですが、危ないため近くのユースホステルで一泊しました。たったの8ドルで驚きです。

ガラパゴスの美しいビーチや、動物たちと近くで触れ合う体験も素晴らしかったのですが、アマゾンではそれとはまた違った、ユニークで忘れられない経験をすることができました。ジャングルには、まさに「未知の世界」と言いたくなるような独特の雰囲気が漂っています。現地のガイドと一緒にジャングルを歩きながら、普段は全く見るできないような動物たちと出会うことができ、その神秘的な体験は本当に特別でした。エクアドルのアマゾンには、どこか原始的な、そして自然そのものの力強さを感じさせる魅力が詰まっていて、ガラパゴスとはまた違った形で心に残る旅行となりました。同じエクアドルという国にしながら、ガラパゴスとアマゾンでは全く異なる体験ができ、そのどちらもが自分にとっての貴重な思い出となりました。それぞれが持っている独自の魅力があり、どちらも一度は訪れる価値があると感じています。本当にまた行きたいです。



4月下旬、やっと私のクラスメイトがインターンシップから帰ってきました。ほとんどの人が1ヶ月間1度も会わなかったもので、すこし新鮮に感じました。インターンシップ先での自分の仕事や大変だったことなどを聞かせてくれました。レストランで働いていた子は日本人に会って日本語を聞いたそうですが、話すスピードが速くてびっくりしたと言っていました。私も最初は全く理解できなかったのが今友達と話せるし、言ってることがわかるので少し成長を実感しています。

あと少し、まだまだ楽しめることがたくさんあると思うので、この1ヶ月と少しの間をしっかりと味わって、帰国する準備を整えようと思っています。あと少しで帰国するという実感が湧いてきたと同時に、次第に帰国後の不安が心の中で大きくなってきました。また、ここでたくさんの思い出ができて、少しずつこの場所が恋しくなるんだろうなと思うと、少し寂しい気持ちもあります。